



No.88

# さいばい ニュース

(財) 神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237  
神奈川県三浦市三崎町  
城ヶ島養老子  
☎046(882)6980  
FAX046(881)2233

## — (財)神奈川県栽培漁業協会22年度事業計画 —

# マダイ・アワビ・クロダイ・マコガレイの 種苗生産と放流・供給事業を継続



マコガレイ種苗をダイレクトに海に放流

## 今年度最初の マコガレイ 種苗放流を 支援

協会は、今年度になり初めての種苗供給事業に取り組みました。横浜埠頭公社が横浜市漁協の漁業者の協力で、横浜・金沢八景の横浜ベイサイドマリナー岸壁で行った種苗放流を支援しました。

このマコガレイの種苗は、協会が生産して育てていたもので、体長は三十〜四十ミリの大きさでした。協会のトラックに乗せた水槽に入れられて運ばれた稚魚は、ホースでダイレクトに海に放流されると、元気に泳いでいました。

協会が設立以来、「神奈川の水産資源を豊に」をスローガンに、漁業者と一体となり栽培漁業の推進に努めてきました。今年度もマダイ、アワビ、クロダイ、マコガレイの種苗を生産し、東京湾や相模湾に放流します。また、漁業協同組合をはじめ水産団体にこれらの種苗を供給します。

具体的内容としては、マダイ資源増大促進事業では、全長二十ミリのマダイ種苗を百三十万尾生産し、全長六十ミリの種苗百万尾を放流します。放流は東京湾域及び三浦半島西岸域にそれぞれ三十五万尾、西湘域に三十五万尾を予定しています。ヒラメ資源増大促進事業では全長六十ミリのヒラメ種苗を東京湾域及び三浦半島西岸域にそれぞれ二万、西湘域に三万尾の合計七万尾を放流する計画です。

## 平成21年度

# 財団法人神奈川県栽培漁業協会の決算について

本財団法人の二十一年度決算の概要を報告します。収入は、総額一億四千九百九十九万七千円です。内訳は、基本財産運用益が八百六十八万四千円、賛助会費九十三万六千円、アワビ、サザエなどの種苗を販売し、カサゴ、メバルの種苗を斡旋した事業収入が八千四百六十五万四千円、収入全体に占める割合は五九・六二%、マダイとヒラメの種苗生産・放流及び栽培漁業資源回復対策等事業及び緊急雇用対策経費の補助金が千六百七十七万六千

事業名	種苗名(サイズ)	22年度(計画)	21年度(実績)
種苗生産	アワビ (5mm)	30,000個	30,000個
	〃 (25mm)	330,000個	318,260個
	〃 (50mm)	60,000個	61,900個
	サザエ (20mm)	250,000個	338,900個
	マダイ (70mm)	90,000尾	85,100尾
	クロダイ (60mm)	80,000尾	68,500尾
種苗供給	マコガレイ (40mm)	72,000尾	71,600尾
	ヒラメ (60mm)	90,000尾	96,500尾
	メバル (60mm)	60,000尾	61,500尾
	カサゴ (60mm)	120,000尾	120,500尾
	クロソイ (50mm)	13,000尾	13,000尾
	トラフグ (50mm)	20,000尾	21,650尾
	カワハギ (50mm)	10,000尾	10,000尾
	ガザミ (5mm)	250,000尾	250,000尾

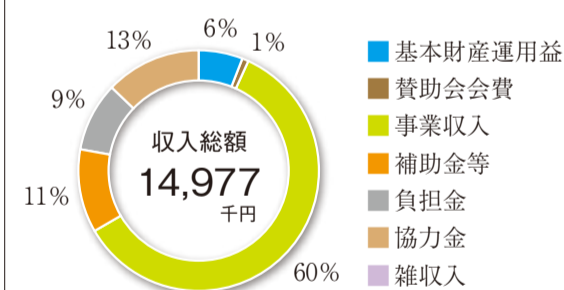
22年度種苗生産・供給計画

漁業者、遊漁船業者などと海域協議会及び作業部会を設置する、二万尾のマダイ種苗に標識を付け、東京湾に放流する、などの栽培漁業資源回復等対策事業や重点分野雇用創進事業を推進します。

種苗放流事業では、協会の生産するマダイ、マコガレイ、クロダイ種苗を県内の適地に放流し、種苗供給事業では協会が生産する種苗を水産団体に供給するほかカサゴ、メバル、トラフグなどの種苗を入手し供給し、ヒラメの大型種苗の育成にも取り組み、配布します。

千円、九・三七%、遊漁船協力金、マダイ釣人協力金千八百八千円、一二・六九%、雑収入三十一万九千円、〇・二二%となっています。

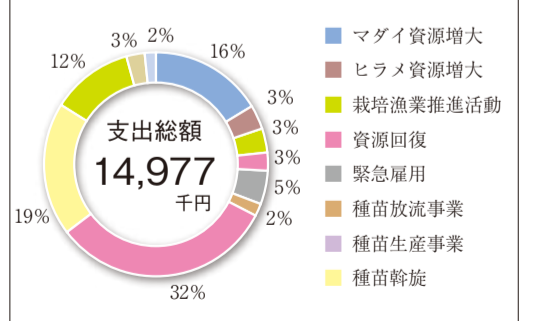
## 21年度収入内訳



円、一一・三二%、漁業者負担金・漁業協同組合負担金千三百二十九万八

主な支出額は、マダイ資源増大事業二千三百一十二万二千円、一六・三%、ヒラメ資源増大事業五百八十七万七千円、三・六%、マダイ標本船調査や「よこばいニュース」等の経費が四百八十四万四千円、二・九%、緊急雇用対策事業に四百六十七万九千円、四・六%、栽培漁業協会独自の種苗放流事業に二百七十三万九千円、一・九%、アワビやマコガレイ等の種苗生産事業に四千五百四十九万二千円、三二%、種苗斡旋事業に種苗購入費や運搬費用に二千六百八十五万九千円、一八・九%、管理費に千六百九十三万六千円、一一・九%、引当金等六百二十六万八千円、四・四%でした。

## 21年度支出内訳



また平成二十三年度からはマダイ資源増大事業とヒラメ資源増大事業の補助が中止される予定となっています。

支出の特徴は、アワビ種苗生産が不調であったため、他県から種苗を購入し、中間育成を経て、配布したことで種苗購入費が五百万円ほど増えました。

この二つの事業は平成二十二年まで継続しましたが、二十三年以降には、予定されていません。また平成二十三年度からはマダイ資源増大事業とヒラメ資源増大事業の補助が中止される予定となっています。

## 潮騒

大西洋や地中海で漁獲されるクロマグロは、このまま獲り続けると、絶滅の恐れがあると、国際的な取引を禁止しようという動きが現れ、わが国ではクロマグロが食べられなくなる、と大きなニュースになりました。日ごろ、クロマグロの消費量が多い日本に批判の矛先が向けられ、クロマグロの国際取引を禁止しようと、「CITES」絶滅の危機のある野生生物の国際取引を禁止する条約「ワシントン条約」に組み込むよう、モナコが提案しました。この海域で獲れるクロマグロは、日本も加盟している大西洋マグロ類保存国際委員会が全体の漁獲量を決めて資源を管理してきたので、日本は「委員会が管理すべき」と主張し、モナコ提案は圧倒的多数で否決され、ホットしたものです。▼ところで、わが国では今、クロマグロの蓄養が盛んになっています。マグロの稚魚を獲り、それをイネスで育てて販売しています。これも海の資源を食いつぶしているわけで、したがってこのことも含め、マグロの資源管理を徹底しなければならぬ時代を迎えていることは間違いないと思います。

# 神奈川県二十二年度主要施策・予算説明会

## 新規に第一栽培漁業施設改修工事など実施

神奈川県水産課は、四月十四日、横浜市中区の神奈川県中央農業会館で、

平成二十二年度水産課主要施策及び当初予算説明会を行いました。県下の水産団体幹部、市町の水産担当職員など七十名が出席、各担当部署の職員による主要施策・当初予算の概要について説明を受けました。



開会説明会・主要施策

また、水産物の直販などで収入を得るチャンネルが作れるよう県も力を入れます」とあいさつ、引き続き、職員の紹介、神奈川県栽培漁業基本計画の改定及び同県の組織の改正について説明が行われました。

また、種苗量産技術開発事業で、殻長二十ミリのサザエ種苗を生産し八十万個を配布する予定です。さらに全長六十ミリのヒラメ種苗も生産し配布します。このほか、ホシガレイ及びトラフグの種苗生産・放流技術を開発するため①親魚養成技術②放流技術③新しい魚類生産体制構築技術開発にも取り組めます。



アッコウの吊るし切り

### 小田原のアンコウ

「相模湾で獲れる四季の魚・親子料理教室」で女性部は、アッコウの吊るし切りを指導しました。

小田原市漁協と同漁協女性部は、アッコウの魚食普及に取り組んでいます。小田原市成田のJAかながわ西湘農産物直売所「朝ドラファーム」店頭では「あんこうまつり」を行い、神奈川県水産技術センター相模湾試験場

JA直売所のオープン二周年記念イベントに協賛し、同漁協の女性部が中心となりまつりを行い、アッコウの格安パックのほか、「あんこうカレー真空パック」などを販売「あんこう汁」を七百食用意し、無料試食サービスを行いました。

また、親子料理教室には九家族・二十人の親子連れが参加し、同女性部の松本久子部長が行った模範切りを見学、一尾のアンコウの吊るし切りに挑戦しました。それぞれの家族は、解体したアッコウをお土産にもらい持ち帰りました。

## 長井町漁協の原田組合長 漁協運動功労者として表彰



原田組合長

で、永年にわたり漁協系統運動の推進及び発展に著しく貢献したとして受賞が決定しました。

原田組合長は、学校を卒業するとすぐに家業の漁業に就き、親代々のノリの養殖に従事するなど、長井地区の沿岸漁業の振興に大きく貢献してきました。また、組合の理事に就任して二十年にわたり組合の運営に尽力し、

県央団体の役員を務めるなどの功績は高く評価されています。また、海産稚アユ採捕組合のリーダーとして、

## 第六次神奈川県栽培漁業基本計画

神奈川県は四月、第六次栽培漁業基本計画を決定し、公表しました。

同漁協の漁業者が漁獲している魚介類を購入してくれる消費者に感謝しようという消費しているのも、地域の漁業振興に大きく貢献しています。

今回の表彰は、毎年各県で漁協系統運動の推進・発展に著しい功労があり、JFグループの模範となる人を全漁連が表彰するもので、今年は今国から二十七名が受賞しました。

## 種苗生産・放流

は、自然条件、魚病の蔓延防止などを考慮し、適正量の放流を計画的に行います。

栽培漁業の推進体制について県は、種苗生産・放流技術の開発や種苗生産施設の維持管理に努めることになり、放流を実施することになります。

そしてマダイは百万、ヒラメは二十万、トラフグは十尾などと種苗放流数を決め、放流を実施することになります。

## まぐる千夜一夜

### 続 鱸のオンちゃん航海記

#### 第16話 国棄て ④

（前号のあらすじ）男の子の家に着き、美人の母親に会います。直してほしいといわれたトランジスタラジオは小一時間で修理を終え、その後、ジンをごちそうになります。

佳い香りと共に、黄色い汁が溢れ出てコップを満たすと「ドウズ、ドウズ」

となかなかの勧め上手なんです。僕は遠慮なしにコップを手を取って、

クンクン嗅いでみると、それは何ともいえない甘酸っぱい香りがします。少し口に含むと、今まで飲んだことの無い何ともいえない佳い味なんですわ。しかし、かなりアルコール分は強いらしい。

僕は酒好きで、出来れば酒の海で泳ぎたいほどなんです。オペ（通信士）さんは、そちらは余りイケる口ではない。一寸口を付けて

「オイ、こりやお前え、ジンの生だぜ。まともには飲んだんじゃ死んじまうぜ」と言って、それきり口を付けません。

口卑しい僕は、余りの旨さと、勧め上手もあって、つい一度を超してしまい、フト気が付くと、部屋の長椅子の上に大の字に寝ていて、時刻はもう真夜中過ぎなんです。

オペさんは、とっくに帰ってしまおうて僕一人がこんなだらしないいたらしくですわ。

結局、そこに朝まで泊めて貰い、夜露を踏んでの朝帰り。こんな、恥ずかしゅうて他人に聞かせられる話ありません。

さて、いよいよ積み込みも小修理も終わり、明日は出港と決まった夕方、もう二度と来ることもないこの港の見納め、一杯飲んで、女の子のケツでも撫でに行こうか、と支度しているところに、一昨日のあの坊主が訪ねて来ようとしたんです。生憎、オペさんは出掛けてしまおうて、僕一人では、どうも手に負えません。その旨を手振り足振りで精一杯伝えたところ、

分かったことは分かったらしい。しかし、一人でもいいから一緒に来てくれ、と言うのです。「オトウサン、オトウサン」しきりに日本語の単語を連発します。

どうやら、一昨日は見えなかったこの子の父親が戻って来て、事情を知ってお礼の一つも言いたいのやろであればなおのこと、主役のオペさんが居らんことには始まりません。しかし、その子が泣きそうな顔で頼むものですから、

「エエイ、行けば行ったで何とかならい。たかを持って行った次第です。家に着くと、一昨日の居間に通されました。」

#### 元日本人

ラジオからは現地の言葉なのかどうか知らないが、チンプンカンプンの言葉が流れている。

それを聞くともなく聞いていると、間もなく男が一人部屋に入って来ました。それが何と顔中髭に覆われていて、目鼻立ちはおろか、年齢好き見え見当がつかみません。

色は黒うて、アラブ人のようにもマレ一人のようにも見えるのですが、頭の毛にも髭にも、白いものが混じっているし、顔には深い皺が何本も刻まれているところから見ると、

「五十にはなっているのかも知れんなーなどと考えていると、その髭が崩れて真っ白い歯がこぼれ、その口から「いやあ、お呼び立てしちゃってご免なさいねえ。何か大層お世話になったってご奴らから聞いて、吃驚しちゃって。私の留守中に勝手なことをお願いするな」と流暢な日本語で喋るんです。」

ホンマ、もう吃驚してしまいました。前置きが長くなりましたが、これがこの話の主人公との出会いの様子なんです。居間と隣り合わせに、テラスというんですか、広々とした張り出しがあって、テーブル、椅子、長椅子などが整然と置かれています。

# その日の朝獲れた魚介類をその日のうちに食卓へ 携帯電話で船上からインターネット販売開始

横須賀市東部漁協横須賀支所夕市会(栗山義幸代表)は、フウド(齊藤悠社長)と協力し、四月中旬から、「東部漁協夕市会サイト」をオープンし、漁獲した魚介類を、洋上の船上にしながらにして携帯電話でインターネット販売するシステムを始めました。

消費者は、漁業者が漁獲し、船上に取り込みサイトに出品した魚を見て注文すれば、十二時間以内に注文主とその魚が届くという史上初の試みです。すでに、旬のマコガレイ、アジ、イシモチなどの魚をセットして関東圏で販売しており、獲れたて活魚・鮮魚の新しい形の生産者直販ルートが開拓された、と注目を集めています。

東京湾で操業している同会の漁業者は、漁獲した代表的な魚を洋上で携帯電話を使い特別メニューとして同サイトに出品します。消費者は漁船が帰港する前に出品された魚を写真や動画で確認し、午前九時までに注文すると、漁業者は漁港に帰ってくる直前に発送し、その日のうちに魚が注文主へ届くというわけです。シケの日を除き年中無休です。そのため、その日の朝獲れた魚がその日のうちに消費者の家庭で食べることができるようになり、活魚・鮮魚料理店などにとっても、その日の朝獲れた「江戸前」の魚を客に出すことができるようになり、お客さんにも喜ばれることは間違いないと話しています。



巻き上げた寿司を持ち上げ大成功  
おおよそ四十分後に鉄火巻ができ上がり、委員長の掛け声で持ち上げ、切れたところがなことを確認して成功ということになり、寿司を台の上に戻した参加者は思わず喜びの歓声を上げ、会場は大きな拍手に包まれました。

さらに消費者は、漁船や漁港の情報を入手することができ、同会はブログを頻りに更新する計画で、同夕市会の逸品の紹介なども行うことにしており、消費者は漁業者・海・魚の情報を手軽に得ることができるようになります。一方漁業者は、携帯電話を使用して船上から受注状況を確認できるメリットがあり、消費者ニーズの把握にもつながります。

フウドの齊藤社長は、「できるだけ多くの消費者に、水揚げから十二時間以内の新鮮な魚の段違いな美味しさを伝えたい」とこのシステムを作り出した。携帯電話はもちろんパソコンでも注文できるので利用して下さい」と話しています。

## 次世代への釣りの文化伝達を担う 公認釣りインストラクター募集

社団法人全日本釣り団体協議会は、次世代への釣りの文化の伝達や釣りの健全な発展を担う「公認釣りインストラクター」を募集しています。二十歳以上なら誰でも受験できる東京会場での平成二十二年年度講習会は今年十月二十三、二十四日(予定)に開催することになっています。

養成講習会は平成二十二年十月二十三、二十四日、試験は講習終了後同日会場で実施します。受講申し込みの締切りは、講習会の一週間前です。会場は、東京海洋大学品川キャンパスを予定しています。受講・受験費用は二万円です。このほ

か、合格者登録料が一万円掛かります。問い合わせは、全日本釣り団体協議会 TEL 02-0083 東京都千代田区麹町六-14 麹町ハイソ 505号室。電話 03-3265-4191。全釣り協・公認釣りインストラクターは、釣りの技術・マナー・水産資源の保護・釣りの場のルール・環境保全・安全対策などの指導、水難事故・漁業者とのトラブル防止など、次世代への釣りの文化の伝達など、釣りの健全な発展を目指し、地域に密着した活動を行っています。

## 江戸前 小柴のシヤコ漁 再開へ

資源を回復させるには自主規制しかない、と決意したシヤコの禁漁を続けていた横浜市漁協は、禁漁して五年目に入った今年、ここにきてシヤコ資源に回復の兆しがみられたことから、シヤコ漁を再開することになりました。しかし、「漁獲の状況をみながら資源管理は徹底する」と、小山紀雄組合長は話しています。

漁港は、底引網漁船が漁獲し水揚げしたシヤコを釜茹でし、剥きシヤコに加工してその日のうちに出荷してきました。そのまま寿司ネタとして使え「江戸前小柴のシヤコ」として人気を博していました。しかし、資源水準が著しく悪化したことから、関係の漁業者は平成十八年から禁漁を決め、資源の回復を待っていました。

この間、資源量の調査を続けていたところ、資源回復の兆候が見られ、シヤコ漁を始めようというところになりました。五月中旬にナマコ漁が一段落するので、シヤコ漁を再開することにしました。とはいっても野放図に漁獲するということではなく、操業は隔週でしかも週二日の操業、午後一時で網揚げ、出荷枚数は八十枚(トレイ一枚に約十匹)といった制限を設けています。小山組合長は「操業して漁があれば続けるが、そうでなければ資源管理のための方策を考える」と話しています。

## 日本一の鉄火巻づくりが成功

三崎まぐろ鉄火巻実行委員会は、四月二十五日、三浦市三崎下町の商店街の路上で、「第5回三崎まぐろ鉄火巻日本一寿司づくり大会」を開催しました。千三百人が参加し、五百三十斤の鉄火巻を作り、巻き上げた寿司を持ち上げ、日本一の寿司づくりに成功しました。大会は、駆け付けた来賓のあいさつの後、佐藤周一実行委員長が「日本一を目指そう」と開会宣言、親子連れなど千三百人が一斉にノリの上にご飯をさらにその上に合計八十二斤のマグロの芯を乗せ、鉄火巻づくりを始めました。おおよそ四十分後に鉄火巻ができ上がり、委員長の掛け声で持ち上げ、切れたところがなことを確認して成功ということになり、寿司を台の上に戻した参加者は思わず喜びの歓声を上げ、会場は大きな拍手に包まれました。

## さいばい漁業って何 ⑦

種苗生産が始まった千九百七十年代には飼育水温を二度から五度ぐらいを二〜三時間で上昇させ、二〜三時間日陰で干出した後に通常の海水に戻す方法で誘発をしていました。



ベリジャー幼生

その後、紫外線照射海水が産卵誘発に顕著に効果があることが分かり、現在、ほとんどの種苗生産施設では、この方法を採用しています。紫外線照射海水はプログラティン(PG)が関与していると考えられています。PGは体内で必須脂肪酸から合成され、生殖系や循環系などの平滑筋に対する収縮や弛緩の作用が知られています。アワビにとってはこのようなストレスが加わることで放卵・放精が促されています。

卵と精子をどのように確保するのか  
種苗を生産するためには、まず、健全な卵子と精子を得るかに掛かっています。

自然界での放卵・放精は産卵期に起こる時化と関係が深く、嵐や台風など低気圧の通過直後にアワビの幼生が採集されることが多いことが分かっています。

このことから、時化によって放卵・放精が促進されたようです。

成熟した卵と精子を手するためには、人工的に誘発する必要があります。

受精後から浮遊期・定着期  
アワビの受精卵は大きさが〇・二六ミリメートルであり、ゼリー層を含めると〇・四ミリメートルくらいです。

受精後十二時間ほどたつとトロコフォア(担輪子幼生)となります。

この幼生は頭の天辺と胴体の上に鉢巻状の繊毛を持って泳ぎます。このトロコフォアの期間に貝殻を分泌する貝殻腺が発生し、足の発達、歯舌を新生する歯舌嚢ができます。

トロコフォアは幼い殻ができ始め、頭の天辺(頂冠部)が平らになり、長い繊毛を持つ面盤が完成し、受精後四日でベリジャー(被面子幼生)とになります。

ベリジャーは、足部の将来、足蹼(そくせき)になる部分に繊毛が出て、運動するようになり、その後、基質に接して匍匐できるようになります。

その後、基質の上で動かなくなり、足蹼面から粘液を分泌し面盤細胞を脱離します。変態後、外套膜が幼殻縁に伸び、周口殻が分泌され、アワビの形が作られます。

この間、約五日〜七日の間で浮遊期から定着期に入ります。

定着期に入ると歯舌で基質の表面をかき取る行動を見せ、バクテリアなどを摂食している可能性があり、その後、珪藻などの微細な藻類を食べ成長していきます。(つづく)

# 朝市・直販所めぐり シリーズ②

## 三崎港のマグロ商品直販センターの元祖

# 三崎新港・三崎さかなセンター



「三崎のマグロ」と全国的に知られている冷凍マグロ類の刺身などの商品を産地価格で販売している「元祖」ともいわれるのが「三崎さかなセンター」です。

三崎港の冷凍マグロ流通加工業者たちが、三崎港を訪れる観光客などに、産地の工場出荷価格で販売し、「三崎のマグロ」を堪能してもらおうと、同センターをオープンしました。共同で冷凍マグロの各種商品を販売する店舗を始めた草分け的存在です。常連客も多く、「ここに来れば美味しい三崎のマグロが手に入る」と人気になっています。



マグロ各種商品直販所「三崎さかなセンター」

販売しているのは、刺身のマグロが主体ですが、各店の担当者に相談すれば「対面」でトロから赤身まで選んでくれます。刺身に「ハラス」「鉢の身」(マグロの頭身の部分で比較的脂の乗りが良い部位)、「カマ」などや「マグロたたき」のほか、贈答品に最適なマグロの味噌粕漬なども購入できるのが魅力です。

【アクセス】東京・横浜方面から車で来る場合は、横浜横須賀道路を佐原で出て、信号を右方向に。道なりに国道134号線まで進み、右折して約20分で三崎港に突き当たります。その三崎公園ロータリーを右に進むと三崎魚市場が見えます。魚市場方向に左折し、すぐに右折して進むと「三崎さかなセンター」が見えてきます。営業は午前9時から午後4時までで火曜日が定休日です。

《問い合わせ》三崎鮪加工センター 046-882-4541



桶を使いヒラメ種苗放流

八十六人が参加しましたが、波が荒かったため協会の職員が放流を担当しました。

同組は、「小田原漁港海岸砂止潜堤工事」を行っていますが、地域に貢献できることはないか、と検討し

真鶴町の鈴木組(脇山俊社長)は三月、小田原市と湯河原町の小学生に参加してもらい、ヒラメ種苗の放流を行いました。

九人が参加、御幸の浜で設置した桶を使い海水を掛け流す方法で、体長六センチのヒラメ種苗千五百尾を放流しました。湯河原町では町立吉浜小学校の四年生

## ヒラメ種苗放流

### 鈴木組が小学生に参加してもらい

小田原では市立三の丸小学校の五年生九十

同校で、種苗放流に先立ち、小田原市漁協の高橋征人組合長が「小田原の漁業」協会の今井利為専務が「ヒラメの一生」、同組の担当者が同浜の海岸工事の概要を説明しました。

同じ日に湯河原町吉浜海岸でもヒラメ種苗を協会の職員が放流しました。そして、校内に水槽を二つ設置し、ヒラメの稚魚を入れ、生徒たちが観察できるようにしました。



神奈川県は、平成二十二年から二十六年までの五年間に、栽培漁業を計画的・効率的に推進し、安定的に事業を展開するための「第六次神奈川県栽培漁業基本計画」を策定しました。種苗生産・放流、小型魚の保護

## 編集後記

この事業は、当協会も一翼を担いますが、掛け声だけでは神奈川県は豊かになりません。海の恵みを受取る多くのの人に、水産資源維持・増大事業を支えていただきました。と願っています。



寄付を手に本田専務と今井専務(右)

横浜市金沢区・遊漁船業者の「弁天屋」(本田功店主)は、五月五日、第6回「21世紀の海を守る大会」を開催しました。二百二十一人の釣り人が参加してシロギス釣りを競いました。そして、大会参加費の一部の九万六千八百円と、前回の優勝者でしたが今回は参

横濱・金沢八景の弁天屋さん  
「21世紀の海を守る大会」  
参加費の一部約十万円を協会に寄付

また、本田専務は「海の資源を守る」という理念で今年も協会に寄付ができました。水産資源を放流し、釣りを楽しむこの大会を今後も続けていきたいと思います」とあいさつしました。

加でできなかった人からの寄付を合わせ協会に寄付してくれました。

参加者は、東京湾・金沢八景沖でシロギス釣りを行い、総重量五百五・二グラムを釣り上げた人が総合一位になりました。寄付金の贈呈式で、同店の本田和芳専務から寄付を受け取った協会の今井利為専務は「この寄付は、種苗放流に使わせていただきます」と感謝の言葉を述べました。



定置網えを見学しに沖へ

## 小田原魚学クルーズ 水揚げされる魚や 定置網漁業を学ぶ

神奈川県は、平成二十一年度事業で、「東京湾・相模湾における海上交通の新たな観光資源開発事業」を行いました。

三月下旬の二日間、相模湾沿岸の港湾施設や漁港を結び、観光魅力を開発する二つの相模湾クルーズを実施しました。その一つが「小田原魚学クルーズ」です。

小田原漁港に水揚げされる魚や定置網漁業を学ぶというもので、参加者は、小田原市早川にある県水産技術センター相模湾試験場に集合、試験場で定置網の模型や魚の標本を見ながら試験場の職員から説明を受けました。

試験場内を見学した後小田原漁港から船に乗り沖に出て、同試験場の担当職員の説明を受けながら、海中に設置されている定置網などを見学しました。



エチゼンクラゲ

## エチゼンクラゲ対策 クラゲを網に入れないことなども

今年三月に開いた相模湾の定置網漁況予測説明会で、エチゼンクラゲの来襲とその対策が話題になりました。その生態や移動などの説明が行われた後、神奈川県水産技術センター相模湾試験場の石戸谷博範専門研究員は、その対策として魚を獲る網に大型のエチゼンクラゲを入れない「バイパス網」などがあることを紹介しました。

昨春秋、相模湾に大型のエチゼンクラゲが来襲した。

石戸谷専門研究員は、その対策として「バイパス網」のほか、クラゲを砕きながら網の外に排出する「クラゲポンプ」などがあることも紹介しました。そしてこれらの導入には、補助を受けることができる、と説明しました。

や産卵する親魚の維持・増大、海の環境改善活動の推進などを計画的に行おうというものです。